

エクステンション講座

いま、子ども・若者の居場所をどうつくるか？

私たちは何を担い、何を指して居場所づくりをすすめていくべきなのでしょう。子ども・若者の居場所をめぐって、近年の日本社会の貧困化・グローバル化や雇用の劣化が進む中で、変化したもの・しないものについて、居場所づくりに取り組んでいる方々、関心を持つ人々がともに学び合う場です。毎回、子ども・若者の居場所の最前線で活躍中の方々に語っていただきます。そして、参加者同士で対話したいと考えています。

◆開講スケジュール / 各回18:30-20:30

開講日	講義名・講師	概要
第1回 2月1日 (金)	共に生きる(共生)とは? 講師/鈴木健(川崎市ふれあい館職員)	在日コリアンと日本人が協同で民族差別をなくす市民運動から生まれた青丘社にて国籍をはじめとする様々な立場の子ども・若者たちと過ごす実践を通して見えてくる共生のあり方や、居場所の活動から見えてきた子ども・若者に対する支援の形などについてうかがいます。
第2回 2月8日 (金)	学校内居場所の意味とは? 講師/尾崎万里奈(公益財団法人よこはまユース)	横浜市内の定時制高校の交流相談カフェ(ようこそカフェ)の運営から見えてきた若者(高校生)たちの様子や、校内居場所とはどのようなところかを語ってもらい、そうした場所が担う役割などについても議論をします。
第3回 2月15日 (金)	もうひとつの学び 講師/西野博之(「フリースペースえん」代表)	川崎市子ども夢パーク、フリースペースえん等での活動の紹介をしていただきます。特に、それらの居場所の中で育まれてきた「学び」について話していただき、子どもたちにとっての「学び」はどうあるべきかを考えます。
第4回 2月22日 (金)	子ども・若者とどうつきあうか? 講師/石井淳一(横浜市ことぶき学童保育)	簡易宿泊所(ドヤ)が立ち並ぶことぶき地区の横浜市寿生活館で、「ことぶき学童保育」を中心として長く活動をしている石井淳一氏に、時代による子ども・若者の変化と子どもたちとのつきあい方を語ってもらい、「支援」のあり方を考えます。
第5回 3月1日 (金)	居場所をどうつくるか? —これからの社会との関わりから考える 講師/柳下換(横浜市立大学非常勤講師)	第4回までの対話の積み重ねを踏まえて、私たちは何を担い、何を指して居場所作りをすすめていくべきなのか考えたいと思っています。貧困問題との関係から、90年代後半以降の日本社会における構造的な変化との関わりも検討することになるでしょう。

- 受講対象 / 一般・学生・NPOスタッフ・社会福祉士・教員・公務員
- 受講料 / 全5回 無料
- 定員 / 25名
- 申込 / 事前にホームページ・電話・FAXにてお申込みください。
- 会場受付 / 講座開始の30分前から受け付けます。
- 会場 / 横浜市青少年育成センター 第1研修室
(横浜市中区住吉町4-42-1 関内ホール地下1F)
(アクセス) JR京浜東北根岸線「関内駅」下車徒歩7分
横浜市営地下鉄(ブルーライン)「関内駅」下車徒歩5分
みなとみらい線「馬車道駅」下車徒歩5分
- 企画監修 / 高橋 寛人(横浜市立大学大学院国際総合科学群教授)
- 主催 / 横浜市立大学地域貢献センター
- 共催 / 公益財団法人よこはまユース
- 後援 / 横浜市政策局

